

# 北山だより

北山湿地(池金町)は、岡崎市自然環境保全条例に基づく自然環境保護区に指定されています。湿地およびその周辺でのすべての動植物の採取等の行為は禁止されています。これに違反した場合は、30万円以下の罰金が科せられる場合があります。貴重な自然環境の保護にご協力ください。

## 北山湿地を守る活動

【8月の作業内容(21日(土)9時～正午 参加24人)】①A湿地内の沢の整備②撤去された旧木道をB湿地沿い散策道に敷設再利用(雨水対策)③B湿地のヌマガヤなど被圧植物除草

B湿地での除草作業



8月の主な作業は、以前からの懸案だった沢のせき止め♣北山湿地内には、湧水が集まってくつもの沢が流れています。細くて浅いこれらの沢は適度に水を溢れさせ湿地を潤してきました♣ところが毎年発生する豪雨



の影響で、沢に一気に大量の水が流れることにより底が削られて、だんだん深くなってきました。このままでは水路のようにただ水が流れるだけで、湿地に水が供給されず乾燥化の原因となります♣湿地周りの山林では、これまでも除伐した枝や幹などを沢や水道に積み上げ、水が一気に流れ落ち

ないように工夫をしてきました♣湿地内でも4年前、数カ所に網に石を詰めて沢に沈める作業を実施し、ここで流れがいったんせき止められ木くずや土砂などゴミが溜まり、一定の効果を上げていました♣



今回、木道付け替えが一段落したことを受けて、台風シーズン前に対策を、ということで、いったん付け替え作業を中止。沢の整備に取りかかりました♣前回の網に石を詰める方法では石が大量に必要となるにもかかわらず、適当な大きさの石が周りに少ないことから、今回は不



要となった杭や除伐された細い幹などを沢に打ち並べ、石や枝をすき間に入れ込む方法。これを深くなりかけている場所を選びながら、何カ所も設けます♣すぐには成果は現れませんが、水流の緩衝材としての役割は果たしてくれるでしょう。引き続き、B～C湿地にかけて沢の整備を続けます。

おかざき湿地保護の会が案内する、恒例の北山湿地自然観察会が開催されます。ミズギク、スイランなど湿地特有の植物、ヘビノボラズの赤い実、湿地を飛び回る多くのトンボたち…。深まりゆく秋の湿地をお楽しみください。【日時】10月30日(土)9時～正午(雨天は翌31日)【定員】30人(超過の場合、抽選)【持ち物など】筆記具、飲み物、ハイキングのできる服装(長袖)、長靴【申し込み】はがき、FAX、Eメールで、「北山湿地観察会」・郵便番号・住所・氏名・電話番号を記入、岡崎市自然共生課まで(連絡先は本紙表面欄外に記載)。10月18日必着。参加者へは追って詳細を通知。

## 北山湿地展のご案内

生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)開催中の10月12日(火)～22日、岡崎市役所西庁舎1階ロビーにおいて「生物多様性・北山湿地展」が開かれます。自然豊かな岡崎市ですが、中でも北山湿地は希少種をはじめ、生物多様性を体感できる代表的なスポットです。

構成は「生物多様性とCOP10について」と、北山湿地の昆虫・植物展示。おかざき湿地保護の会特別会員で昆虫がご専門の大平仁夫先生(農学博士)や同会の柵木宗孝副会長による昆虫の標本、同じく特別会員で植物がご専門の千賀敏之先生(元新編岡崎市史調査委員)や名倉正志会長による植物のパネル写真などが主な内容です。

展示時間は市役所開庁時、土日休み。問い合わせは自然共生課まで。

**《矢並湿地一般公開》** 豊田市がラムサール条約登録を目指している湿地。一面のシラタマホシクサとミカワシオガマは見事◆10月8日～10日 9時～15時◆鞍ヶ池公園・虹のかけ橋駐車場より無料シャトルバス送迎◆問い合わせは豊田市環境政策課まで。※水とみどりの森の駅10月のプログラムは同ホームページまたは市政だより9月15日号をチェック。

## 湿地保全の輪を広げる

ナガバノイシモチソウ自生保護地



8月25日(水)、湿地保護の会会員11人、特別会員の先生1人、自然共生課職員2人で豊明

大狭間湿地



市のナガバノイシモチソウ自生保護地、みよし市の三好ヶ丘緑地の視察を行いました。

午前中に豊明市を視察。このナガバノイシモチソウは赤花で全国的にも珍しく、豊明市と

三好ヶ丘緑地



豊橋市でしか見ることができません。

保護団体の浅井さんに自生地の保護についてうかがったところ、水の管理が大切だということでした。視察後、時間に余裕があったので近くにある大狭間湿地おおはざまも案内していただきました。ここではシラタマホシクサが見ごろでした。

午後はみよし市の視察。ここは団地の中に残された小さな湿地です。保護団体の鈴木さんのお話では、重要な部分は一般に公開してないそうです。情報公開が難しいとおっしゃっていました。※豊明市ナガバノイシモチソウ自生保護地はフェンスで囲われ通常非公開。大狭間湿地も年数回の公開日以外、場所は公表していない。

豊橋市美術博物館(豊橋公園内)は10月9日(土)より「愛知県指定天然記念物 葦毛湿原展一里山の多様な生物と人間一」を開催します。11月7日まで。開館は9時～17時。月曜休館。無料。主な展示内容は①人間とのかかわり②湿原の変化③保護活動の歴史④葦毛湿原の自然。これに合わせ、以下のイベントが開催されます。【観覧会】10月9日9時より。同館まで事前申し込み。申し込み順60人【記念講演会①「葦毛湿原の保護と研究」】10月10日13時30分より。当日先着90人。職員会館5階【記念講演会②「葦毛湿原の今と昔」】10月23日13時30分より。当日先着80人。豊橋市美術博物館【シンポジウム「葦毛湿原の保護と里山の自然」】10月24日13時より。当日先着300人。駅前文化ホール開発ビル10階。各行事の詳細・問い合わせは豊橋市美術博物館まで(☎0532-51-2882)。

## きたやま歳時記④

### 池金を振り返って(下)

とりわけ、早春の池金は心に残る蝶との出会いが多かった。テングチョウ、コツバメ、トラフシジミ、ミヤマセセリ、ツマキチョウ、ヒオドシチョウなどがその代表的な蝶である。春の日差しを浴びて翅を広げる姿を見ているときはまさに至福の一時であった。中でも特に美しいのは、春の女神・ギフチョウである。誰もいない池金の自然の中で、その女神は捕らえられる心配もなく優雅に舞っている。彼女と一対一で向き合いながら写真を撮らせてもらう喜びは最高であった。彼女の写真を撮るのは大変難しかったが、その容姿を順光ではなく逆光で見ること、美しい姿が増幅される喜びを感じていたものだ。

そんなこととは裏腹に、当時こんなエピソードもあった。ある日、「教育委員会の紹介で…」と言って市議会議員が私の家に電話をかけてきた。「東京の知人が岡崎のギフチョウを捕まえたいと言っているので案内してくれないか」といった内容である。私は情けない依頼に愕然とすると同時に、「嫌です」と即答した。当時はそんな程度だった。市議会議員だと言えなんでも聞いてくれると思っていただろう。かなり執拗に迫ってきたけどね…。私の将来はここで決まったかも(笑)。岡崎の自然にこだわってきた私としては、そんな簡単に岡崎の宝を渡すわけにはいかなかった。今でもその気持ちに変わりはない。

そして、ついに昭和58年(1983)ごろを境にして、ギフチョウの美しい容姿は全く見られなくなってしまった。(文・写真/おかざき自然体験の森囃子員・元緑丘小学校教頭 三浦重光)



新しい水とみどりの森の駅「岡崎市こども自然遊びの森 わんPark」が10月1日(金)にオープン。9日から毎週土日・祝日には、自然を題材とした子ども向け体験プログラム(クラフト教室、ゲームなど)を実施。【記念植樹】9月30日10時より。ミツバツツジ・ヤマザクラなど500本余りを植樹。一般参加者を募集。先着50人。森の総合駅(檜山町)まで電話で申し込む(☎82-2511)【オープニングイベント】10月2日・3日。ジョン・ギャスライトさんと遊ぶ「わんPark魅力発見ツアー」、未来環境創造戦士エコマンダーショー、芝すべりtheギネスに挑戦、森の住人を捜そう、泥んこ綱引き大会、落ち葉と木の実で何作ろう?。各イベントとも10時～15時30分の間に1～3回実施。